

平成 2 6 年度研究成果中間報告書《平成 2 6 年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 高等学校
				教科名	農業
研究課題	○将来の地域産業や地域農業を支える人材育成に資する農業科教育の在り方についての研究 ①座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫改善 ②原則履修科目「農業と環境」(※以下、「農業と環境」)における学習状況の把握に資する調査研究				
ふりがな 学校名 (生徒数)	ほっかいどうしずないのうぎょうこうとうがっこう 北海道静内農業高等学校 (195 人)				
所在地 (電話番号)	北海道日高郡新ひだか町静内田原 797 番地 (0146-46-2101)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.shizunainougyou.hokkaido-c.ed.jp/				
研究のキーワード ①座学と実験・実習の密接な連携 ②指導方法等の工夫・改善 ③学習状況の適切な把握 ④地域関係機関との連携 ⑤学校設定科目「デュアル派遣実習」					
研究成果のポイント ① 座学と実験・実習を密接に関連づけた効果的な指導を行うため、原則履修科目「農業と環境」等における農業学習の指導方法と評価方法の工夫・改善を図れた。 ② 日本農業技術検定や生徒へのアンケート調査等の実施により、学習状況の把握と分析を行うとともに、その結果を踏まえた授業改善を行うことができた。 ③ 地域農業等の人材を育成・確保するため、地元企業と連携しながら地域に貢献できる専門性の高い産業人の育成を図ることを目的とした学校設定科目「デュアル派遣実習」(※以下、「デュアル派遣実習」)を教育課程に設定するとともに、JA、町、農家、企業等で組織する「地域産業人育成連携協議会」を設置することができた。					

1 研究主題等

(1) 研究主題

地域農業や地域社会の持続的かつ安定的な発展に寄与する産業人育成に関する研究
 ～地域教育力を活用した農業教育の指導方法と評価方法等の工夫・改善～

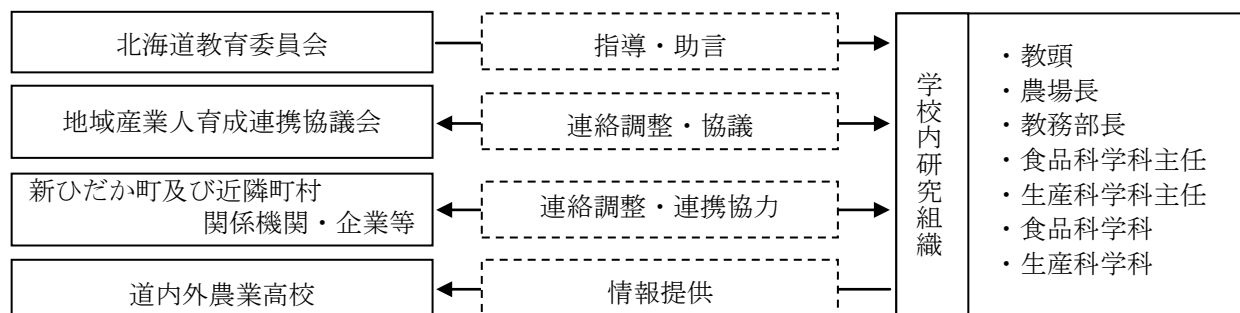
(2) 研究主題設定の理由

本校は、食品科学科と生産科学科の 2 学科を設置しており、農業の担い手や関連産業に従事する人材育成を目指して、教育活動を推進している。

農業高校においては、生徒が、社会の変化等に対応できるよう、職業人として必要な基礎的・基本的な知識、技術及び技能を確実に習得させることが求められており、地域のニーズを踏まえるとともに、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図る指導方法や評価方法の工夫・改善に取り組むことなど、教育の質保証を担保するための教育課程を編成することが重要である。

こうしたことから、農業教育の充実と、社会の変化に柔軟に対応できる力の育成を図ることを目指した教育課程の改善・充実についての研究に取り組むため、本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成26年度	4月	- 各事業の計画及び日程調整 「プロジェクト計画発表会」の実施 - 農業科における各科目の評価規準の作成
	6月	研究授業及び合評会、教員研修会（農業教育の指導の在り方）の実施
	7月	「農業と環境」における生徒の現状把握のためのアンケート調査の実施
	9月	教員研修会（観点別評価の在り方）の実施
	10月	研究授業及び合評会、教員研修会（座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫改善）の実施
	11月	日本農業技術検定に向けた指導体制の改善
	12月	「プロジェクトまとめ発表会」の実施 「生徒の産業人としての自覚を促す講演会」の実施 「地域産業人育成連携協議会」設置の準備 「デュアル派遣実習活動成果発表会」の実施
		次年度へ向けた農業科における各科目の評価規準及び年間評価計画の検証と改善
	1月	「農業と環境」及び「デュアル派遣実習」の記録簿の検証と改善
	2月	「農業と環境」における生徒の現状把握のためのアンケート調査の実施
	3月	「農業と環境」の学力テストの実施 - 研究成果の公開（ウェブページ）

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫・改善

「農業と環境」における農業学習のガイダンスとなるプロジェクト学習や科目「作物」、「畜産」、「総合実習」等における発展的なプロジェクト学習の指導方法と評価方法等の工夫・改善を行う。

② 「農業と環境」における学習状況の適切な把握と授業改善

農業技術検定や学力テスト等による学習状況の把握と分析を行うとともに、その結果を踏まえた授業改善を行う。

③ 地域関係機関と連携した農業教育の改善

地域農業等の人材の育成・確保するため、地元企業と連携しながら地域に貢献できる専門性の高い産業人の育成を図ることを目的とした学校設定科目「デュアル派遣実習」を教育課程に設定するとともに、J A、町、農家、企業等で組織する「地域産業人育成連携協議会」を設置し、地域農業等人材育成を図るための具体的方策を協議し農業教育の改善を行う。

(2) 具体的な研究活動

① 座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫・改善

ア 研究授業及び研究協議、教員研修会の実施

(ア) 第1回目(6月2日)

農業科の教員を対象に、「農業教育の指導の在り方」についての研修会を実施し、「農業と環境」の研究授業及び研究協議を行った。

(イ) 第2回目(9月30日)

日高教育局から指導主事を講師として招き、全教員を対象に、「観点別評価の在り方について～学習指導と評価の改善・充実～」についての研修会を実施した。

(ウ) 第3回目(10月8日)

農業科の教員を対象に、「座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫改善」についての研修会を実施し、「農業と環境」の研究授業及び研究協議を行った。

イ 農業科における各科目の評価規準等の作成

指導と評価の一体化を図るため、農業科における各科目について、学習指導要領に示された目標に準拠した単元毎の評価規準を作成するとともに、年間評価計画を作成し生徒の学習状況を的確に評価した。

ウ 「農業と環境」及び「デュアル派遣実習」の記録簿を作成

現在活用している記録簿に生徒の観点別自己評価欄を設けるなど、思考力・判断力・表現力を育成するための工夫改善を図った。

エ プロジェクト計画発表会及びプロジェクトまとめ発表会の実施(4月・12月)

プロジェクト学習においては、計画を立案する過程を重視しているため、プロジェクト計画発表会を実施した。また、学習の成果を客観的に評価するため、関係機関の職員を審査員に招いてプロジェクトまとめ発表会を実施した。

② 「農業と環境」における学習状況の適切な把握と授業改善

ア 生徒に対するアンケート調査の実施(7月・2月)

「農業と環境」において年度始めにアンケート調査を実施し、生徒の学習状況の現状把握を行い、授業の到達目標を明確することにより授業改善に役立てた。また、年度末にもアンケート調査を実施し、生徒の学習状況の変容を分析し、次年度の指導に生かすこととした。

イ 日本農業技術検定の指導方法の改善

学科間で連携を図る指導体制を確立し、授業における指導及び放課後における補習指導を計画的に行うこととした。

ウ 「農業と環境」の学力テストの実施(3月)

生徒の学習内容の定着状況を把握するため、北海道高等学校学力向上推進事業(北海道教育委員会)における「学力テスト」を実施し、その結果を分析するとともに次年度の指導に生かすこととした。

③ 地域関係機関と連携した農業教育の改善

ア 「地域産業人育成連携協議会」設置(3月)

地域農業等の人材の育成・確保のシステムを構築するため、JA、町、農家、企業等で組織する「地域産業人育成連携協議会」を設置した。

イ 生徒の産業人としての自覚を促す講演会の実施(12月)

地域農業や地域社会の持続的かつ安定的な発展に寄与する産業人としての自覚を促すため、生産馬育成牧場において人材育成に携わっている福島県「ノーザンファーム天栄」の場長を講師として招いた生徒対象の講演会を実施した。

ウ デュアル派遣実習活動成果発表会（12月）

「デュアル派遣実習」の活動成果発表会を、実習受け入れ先である農場・牧場の経営者・職員、パン工房職員等を招いて実施した。

3 研究の成果と課題

（1）成果

- ① 生徒に対してアンケート調査を実施したことにより、生徒の学習状況の現状把握と授業の到達目標を明確にすることができた。
- ② 農業科における各科目の評価規準を作成し評価方法等の工夫・改善を行ったことにより、指導と評価の一体化を図ることができた。
- ③ 「農業と環境」及び「デュアル派遣実習」の記録簿を作成したことにより、観点別学習状況の評価の充実を図ることができた。
- ④ 評価方法の工夫・改善等の教員の研修会を実施したことにより、指導と評価の一体化を図った授業改善を行うことができた。
- ⑤ 関係団体と連携を図ったことにより、地域農業等の人材育成・確保のシステムを構築するための組織である「地域産業人育成連携協議会」を設置することができた。
- ⑥ 地域の教育力を活用し、「デュアル派遣実習」の受入や外部講師を招いた講演会を実施したことにより、生徒の興味・関心の喚起や理解の深化を図ることができた。

（2）課題

- ① 生徒に対するアンケート調査の内容が多岐にわたり、生徒が理解しづらい内容となったため、調査内容の精査が必要である。
- ② 各科目の指導内容の重複を避けるため、各科目の年間学習指導計画における指導内容の精査が必要である。
- ③ 適切な学習評価を行うためには、作成した評価規準に基づいた学習評価を行うとともに、継続的に評価規準を改善することが必要である。
- ④ 生徒の思考力・判断力・表現力を的確に評価するため、該当する科目の記録簿の記入内容はもとより、方法や時期等についても工夫・改善する必要がある。
- ⑤ デュアル派遣実習の経験を進路選択の契機や自己の在り方生き方の深化につなげるためには、事前・事後指導の充実を図ることが必要である。
- ⑥ 座学と実験・実習を密接に関連付けた指導の充実を図るためには、効果的なプロジェクト学習の指導に関する教員対象の研修会の実施が必要である。
- ⑦ 設立した組織である「地域産業人育成連携協議会」から効果的な支援を受けるためには、組織の構成を検討する必要がある。
- ⑧ 地域の教育力を生かした活動を推進するためには、外部講師を招いた授業を行ったり、関係団体等の職員に授業を公開したりすることが必要である。

（3）研究2年目へ向けての取組

- ① 生徒の学習状況を適切に把握するため、アンケート調査の内容を改善する。
- ② 評価規準に基づいた学習評価を行うとともに、継続的に評価規準を見直す。
- ③ 「農業と環境」及び「デュアル派遣実習」の記録簿の改善・充実を図る。
- ④ デュアル派遣実習における事前・事後指導の充実を図る。
- ⑤ 効果的なプロジェクト学習の指導に関する研修会を実施する。
- ⑥ 「地域産業人育成連携協議会」の組織を改善する。
- ⑦ 外部講師を活用した授業の充実を図るとともに、関係団体等の職員に授業を公開する。